

黒部市立清明中学校 令和5年度 学校だより第3号 令和5年10月31日

共に支え合い 粘り強く努力する たくましい生徒の育成

鷹 志

シンギュラリティとヒトの力

教頭 新村宏樹

「シンギュラリティ」が注目されています。「技術的特異点」といわれ、人工知能(AI)が人類の知能を超える転換点という意味です。現在すでに、AIは車の自動運転や顔認証、様々なアプリ等に活用されており、私たちの生活が便利になっている実感があるのではないのでしょうか。同時に、その発展のスピードに驚かされ、今後負の側面が世界にどのように影響を与えるかが心配されます。

ChatGPTのような生成AIツールも爆発的に発達しています。サイトにアクセスすれば簡単に活用でき、ヒトとヒトとがやり取りするかのよう自然な文章で対話することができます。「黒部市について200字で紹介して」と入力すると、次の回答が出力されました。

黒部市は、日本の富山県に位置する美しい都市で、四季折々の魅力が広がっています。最も有名な観光スポットは、壮大な黒部ダムです。このダムは、立山連峰に抱かれた絶景の場所で、訪れる人々に驚きと感動を与えています。黒部市は立山黒部アルペンルートの入口でもあり、四季折々に楽しめるアウトドアアクティビティの宝庫です。冬にはスキーやスノーボード、夏にはハイキングや登山が楽しめます。温泉地も点在し、リラックスした休暇が楽しめます。地元の農業と漁業が盛んで、地元の新鮮な食材が豊富に取り揃えられています。自然愛好家や観光客にとって、黒部市は美しい景色とアクティビティが満載の理想的な場所です。四季を通じて、この素晴らしい場所の魅力を探索しましょう。

文章は読みやすく、黒部市をよく知らない人にとっては、自然が豊かでアウトドアや食事が楽しめることから、ぜひ訪れたいという高揚感につながるかもしれません。一方で、黒部ダムやアルペンルートは黒部市にはない、もっと具体的なよいところを教えてください、300字以上ある、などの声が聞こえてきそうです。まだこの程度のレベルの技術かと思いつつも、さらなる技術革新に不安を覚えます。

生成AIの問題点として、「不正確性」「不透明性」「著作権」等が指摘されています。また、教育での生成AIの利用についてのガイドライン(※)では、学ぶことの意義に加え、人間中心の発想で生成AIを使いこなしていくために、各教科で学ぶ知識や文章を読み解く力、物事を批判的に考察する力、問題意識を常にもち、問いを立て続けること、そして学びに向かう力、人間性等の涵養がこれまで以上に重要になると示されています。生成AIには人格や感情がないことを認識しつつ、生成AIが導き出した回答には誤りがあることを前提にして、ヒトがもつ自分自身の思いや考え、知識を基盤にして最終的に判断して使用していく必要があります。

次頁からは4月に実施した全国学力・学習状況調査の結果分析を掲載しています。本校生徒の強みと弱みを明らかにしており、今後の授業改善につなげたいと考えています。シンギュラリティは早ければ2030年と予測されており、その後、重要になるのはヒトがもつ思考力や発想力、想像力、感情を表現したり受容したりする力ではないかと思えます。AIが進化し続ける今、私たちには多様な学習を通して知識・技能を得ることや、他者との交流を通じた経験知を積んでおくこと、つまりヒトとしての力を高めることが必要です。その場を本校の学校教育全体で探っていくことに努めたいと考えています。

※ 文部科学省(令和5年7月4日)「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果をお知らせします

中学校第3学年の生徒を対象に実施された全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。この調査は、国語、数学、英語の「教科に関する調査」と生活習慣や学習環境等に関する「質問紙調査」があり、生徒の学力の定着を確認したり、生活環境と学習状況との関連について分析したりすることを目的としています。この調査は3学年の生徒の実態の一部を表しているものですが、本校全体の実態の傾向として捉え、今後の改善に生かしていきたいと考えています。

ここでは、本校生徒の結果の概略をお知らせするとともに、今後の本校の学力向上に対する方策を紹介します。

国語

◎優れている点

- ・会社を訪問し、職場の方にインタビューすることを想定した問題について、インタビューの目的を理解し、なぜその質問を作成したかという意図を把握する能力に優れている。
- ・本の読み方について書かれた文章を読み取る問題について、叙述を基に文章の中心的な部分と付加的な部分を捉えて、要旨を把握する能力に優れており、事象や行為、心情を表す語句について理解している。
- ・古文の歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すためのきまりを理解している。

▲課題の残る点

- ・「判じ絵」のレポートについて、表現を変更する意図を問う問題では、読み手の立場に立った叙述の仕方を考え、文章を整えることに課題が残る。
- ・「おし量る」の「おす」を漢字に直す問題については、文脈に即した漢字を書くことに課題がある。
- ・「竹取物語」の古文と現代語訳を比較し、現代語訳にどのような工夫がみられるかについて、提示された情報を取り上げながら自分の考えを書く問題では、文章の構成や展開、表現の効果に関して根拠を明確にして考えることに課題がみられる。

【結果の考察と今後の対策】

文章の構成や表現から、書き手の意図を理解することができています。また、古典における基礎も身に付いています。しかし、把握したことを自分の言葉で表現したり、条件に合わせて文章を書いたりすることには課題があります。

これまでの授業において、様々な文章に触れ、文種の違いも意識しながら書き手のねらいや工夫点を考えることを行ってきました。「比較」を通じて、登場人物の設定や構成の特徴を捉えるだけでなく、同じテーマの作品を読み比べることで、主張につなげるための根拠の用い方を分析するなどの活動に継続して取り組んでいます。この積み重ねにより、読み手として書き手の意図を分析、把握する能力の育成につながったと考えられます。

全体的に無解答が少なく、意欲的に問題に取り組んでいることが見受けられます。しかし、記述問題では無解答が目立ち、記述問題に苦手意識があると考えられます。また、話し合い活動等の様子から、自分の主張を伝えることそのものに抵抗を感じていることが見受けられます。自分の主張を述べることは今後の生活にも必要であり、よりよく伝える手法を身に付けること、そして身に付いていると実感する機会を増やすことが抵抗感を減らすことにつながると考えます。そのために、様々な形式や条件の作文問題に取り組むだけでなく、文章から学んだ構成や表現の工夫を生かして自分の考えを書いたり、読み取ったことをまとめたりする活動を授業の中にさらに取り入れ、その力を伸ばしていきたいと考えています。

数学

◎優れている点

- ・データのばらつきを表す四分位範囲の意味を理解し、表から読み取ることができる。

- ・目的に応じて式を変形し、その意味を読み取って、事柄が成り立つ理由を説明することができる。
- ・与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる。

▲課題の残る点

- ・2直線が平行であることを証明することに課題がある。
- ・累積度数や自然数の意味の理解に課題がある。

【結果の考察と今後の対策】

「数と式」や「関数」の問題がよくできています。しかし、「図形」や「データの活用」の問題では課題がみられました。

「数と式」や「関数」の学習においては、数や文字を用いた式の計算など基礎的な活動を繰り返し行ったり、関数関係に着目して表・式・グラフの関係を関連付けて考察し表現したりする取り組みを継続してきました。このことが、日常生活における諸問題でも関数を活用して多面的に分析して解決できる力につながっています。

しかし、自然数や累積度数といった数学用語の意味の理解に課題が残っており、これらを正しく理解し、適切に問題を読み取ったり表現したりする力を高める必要があります。授業の中で丁寧に意味を確認する機会や、他者に説明する場面をつくり、定着を図りたいと考えています。

また、「図形」の学習においては、観察や操作、実験等の活動を通して視覚的に理解できるような授業を行いながら、論理的に考察し、数学的に表現できる力を高めることが必要だと考えています。また、2直線の平行を示すためには、同位角または錯角が等しいことを示せばよいことへの理解が不足していることから、図形の性質を再整理することで確実に理解し、活用することができるよう努めます。

今後も、数学的な事象から見いだしたことを説明したり、活用したりする活動を充実させるとともに、生徒の思考の流れを意識した分かりやすい授業を進めていきたいと考えています。

英語

◎優れている点

- ・状況を描写している英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択して答える問題では、情報を正確に聞き取ることができる。
- ・事実や考えが書かれた英文を読み、考えを表している英文を選択する問題では、「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことができる。

▲課題の残る点

- ・ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く問題においては、課題が残る。
- ・行事や部活動等の学校生活の中から紹介したものを一つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く問題では、日常的话题について、事実や自分の考え等を整理して、文章を書くことに課題が残る。



【結果の考察と今後の対策】

英語の「聞く力」や「読む力」は概ね定着しています。一方「書く力」の定着が進んでおらず、手立てを講じる必要があります。

授業においては、英語表現を使う目的・場面・状況の設定を十分に考慮し、毎時間の課題を設定して授業を展開しています。生徒は場面状況に合うように既習の表現を交えながら、新しい表現を用いて意欲的に活動しています。小学校での学習に加えて、中学校では新しい表現を身に付けようと、友達の表現にしっかりと耳を傾ける姿勢が、「聞く力」の定着を促していると考えられます。

今後は現在の言語活動の中に、正確な発信の仕方と相手の意図や表現したいことを正しく理

解する力を向上させていく活動を取り入れることが必要だと考えています。生徒のペアワークの中での会話に誤りがあっても、生徒同士では間違いに気が付かず、修正できないまま活動が進んでしまうことがあります。活動の中で教師が適切な助言を行い、正しい表現の仕方を学ぶことができるようにしていきたいと思えます。また、授業の内容についてまとめの時間を利用して、学習した英語の表現を正確に記録するなど、英語を書く機会をつくることにも工夫が必要です。生徒が英語を学び、活用する必要感をもつことができるように、今後も入念な授業づくりや教材研究を継続していきます。

生活習慣や学習環境等（質問紙調査から）

◎概ね良好と思われる状況（全国平均と比較して）

- ・朝食を毎朝食べている。毎日、同じくらいの時刻に起床、就寝している。
- ・将来の夢や目標をもっている。人の役に立つ人間になりたいと思う。学校は楽しいと思う。
- ・総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。

▲課題がみられる状況（全国平均と比較して）

- ・困りごとや不安があるときには、先生に相談できると回答した生徒が少ない。
- ・学校の授業時間以外に、普段（月～金）、1日当たり勉強する時間として、1時間未満と回答する生徒が全体の約4割を占めている。
- ・授業での課題の解決に向けて、自分で考え自分から取り組んでいたという生徒が少ない。
- ・学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている生徒が少ない。
- ・読書をする生徒が少なく、その時間も少ない。（新聞も含む。）
- ・授業でのタブレット等のICTの使用機会や時間が少ない。

【結果の考察と今後の対策】

生活習慣については、多くの生徒が規則正しい生活を送っています。その一方で、困りごとや不安を先生に相談することを苦手としている傾向がみられます。学校では、学校保健委員会において「困ったときはSOSを出そう」をテーマにして、悩みごとを誰かに相談することについて考えました。悩みごとを一人で抱え込まず、誰かに相談することで、気持ちの整理ができたり、気分転換になったりすることがあります。学校や諸機関の相談窓口について再確認や周知を行い、相談しやすい環境づくりに努めていきます。学校で、落ち着いて学習に取り組むためには、心身共にたくましく健康であることが大切です。学校と家庭、地域との連携のもと、生徒の健全育成に努めていきたいと考えています。

また、将来の夢や目標をもっている生徒や人の役に立つ人間になりたいと思う生徒が多いことが分かりました。総合的な学習の時間において職業について調べたり、体験的な学習を行った中で自分のやりたいことを見付けることができたのではないかと思います。総合的な学習の時間では、課題解決に向けて意欲的に学習に取り組んでいます。その一方、各教科の学習では、自分で課題を見付け、解決に向けて考える機会が少なかったように感じているようです。今後はICTを利活用しながら、生徒が自ら課題を設定し、粘り強くその解決に取り組みながら他者と学び合うことができるような活動を各教科で検討していきたいと思えます。

家庭学習（学習塾や家庭教師等も含む）の時間について、1時間未満とする生徒が全体的の4割を占めています。また、学習した内容について分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている生徒が少ないという結果が出ています。このことから、家庭学習への取り組み方に課題があるのではないかと考えています。今後、授業で学んだ内容を家庭で振り返るためにはどのように進めたらよいのかを改めて各教科から提案していきたいと思えます。

